

- ・表紙「第9・10回安曇野市総合芸術展」……p.1
- ・安曇野を知る1枚「ウェストン像」……p.1
- ・公民館講座  
(豊科・穂高・三郷・堀金・明科)……p.2,3

- ・新任公民館長あいさつ……p.2
- ・地区公民館だより「光地区」……p.4
- ・公民館活動推進功労者表彰  
地区公民館報表彰……p.4



### 第9回・第10回合同 安曇野市総合芸術展

3月10日～19日開催

安曇野市総合芸術展が、豊科交流学習センター「きぼう」で開催された。昨年(第9回)はコロナ禍で中止となったため、第9回と第10回の作品を併せて計123点が展示された。期間中、13・14日にはあづみ野ビデオクラブのビデオ映像19作品も上映された。写真や絵画、工芸など、各地域文化祭の出展作品から選ばれた作品は素晴らしいものばかりで、参観者は熱心に見入っていた。

## 地区公民館だより 光地区公民館(豊科)

光地区は光城山の麓、国道19号沿いにあり、野田地区と南村地区から成り立っている。

令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため行事が大幅に制限された。子ども対象の魚つかみ、カラオケ大会、夜には安曇野花火鑑賞を行う8月14日の夏祭りは、区民が楽しみにしている行事だが中止となった。12月6日には、しめ縄・ミニ門松講習会を開催することができ26人が参加した。大人はしめ縄、子どもはミニ門松を作る講習会だが、ミニ門松は新しい年を迎えるインテリアとして人気だ。1月10日には三九郎を行い、60人が参加して無病息災を願った。



光地区公民館には、元気に活動をしている4団体がある。「光遊会」は、毎週日曜日にワンバウンドふらば〜るバレーボールの練習をしている。「光マレットゴルフクラブ」は月1回、月例会を行っている。「写遊会」は、10月25日に公民館で写真展を開催した。「光ゴルフクラブ」は年2回ゴルフコンペを開催している。10月29日から11月15日まで開催された豊科地域文化祭には地区住民のパッチワークやビーズアートの作品や「写遊会」の写真、「菊花同好会」の丹精込めて作った菊花が展示された。

地区公民館報「ひかる」を年5回発行し、区民に公民館活動を紹介している。早く新型コロナウイルス感染症が終息し、公民館活動が元通りになることを祈るばかりだと公民館長の長崎康成さんは語った。

## 公民館活動推進功労者及び団体、地区公民館報表彰

令和2年度の公民館活動推進功労者表彰者及び団体、地区公民館報表彰が決定した。

- ▶公民館活動推進功労者表彰者、団体(敬称略)  
前二木地区公民館長 手塚雄二(三郷)  
久保田区フラワー会(穂高)
- ▶地区公民館報表彰  
最優秀賞 荻原地区公民館(明科)  
優秀賞 柏原地区公民館(穂高)  
青木花見地区公民館(穂高)  
審査員特別賞 野沢地区公民館(三郷)

二木地区の手塚さんは、平成27年度から6年間にわたり二木地区公民館長を務め、地区住民の交流活動に尽力された。久保田区フラワー会は、10人ほどのメンバーが、久保田地区公民館周辺の大きな花壇でたくさんの花々を育て、地区住民の憩いの場としてきた。

令和2年度で8回目となった地区公民館報表彰審査会は、要綱の改正により3年連続で最優秀賞を受賞した豊里地区は表彰の対象外とし、審査が行われた。最優秀賞は荻原地区が初めて受賞し、優秀賞の青木花見地区も初受賞となった。



荻原地区公民館報



柏原地区公民館報



青木花見地区公民館報



野沢地区公民館報

受賞した地区公民館報は7月中、各地域の公民館に展示します。

## ウェストン像(堀金岩原)

堀金岩原地区の大天井岳線を、国営アルプスあづみの公園から烏川溪谷緑地方面に向かうと「千国道・栗尾道烏川渡し場」の標柱が建つ広場がある。常念岳を望むこの場所にウォルター・ウェストンの像があり、明治27(1894)年に岩原の元大庄屋山口家に滞在し、外国人として初めて常念岳に登った彼と、彼を支えた地元の人々を顕彰している。



### 編集後記

◆「新たな日常生活」に合わせるかのように公民館報もリニューアルされたが感想はいかがだろうか。外出がはばかられ、ふれあいの難しい時代であるが心と体の健康は保ちたいものだ。(K・Y)

◆今号より、紙面を一新しカラー版となった。従来の公民館報の固いイメージから脱却し、より身近に多くの方に興味を持って読んでいただけるような紙面づくりを目指していきたいと思う。(M・S)

# 【公民館講座】

みさと

「みさと落語会」

三郷公民館は、3月21日に教養娯楽講座「みさと落語会」を開催し、29人が落語を楽しんだ。

軽快なおはやしとともに高座に上がった3人の信州社会人落語会の落語家たちは、軽妙な語り口で扇子などの小道具をうまく使い、オリジナリティーあふれる演目で来場者を楽しませた。観客の手拍子によって披露された南京玉すだれの演技では、すだれが自在に変化する様子が見事で、リズムに合わせて体を揺らす微笑ましい様子の方も見られた。

いまだに落ち着く様子が見えないコロナ禍ではあるが、訪れた区民は「コロナに負けるな!」「春よ、来い!!」と銘打った落語会から笑いと言語をもらった。

【信州社会人落語会】

長野県内に居住する落語愛好家によって平成20年5月に結成された信州社会人落語会は、現在は3人で運営されている。「個々の芸を磨きお客様に喜んでいただくこと」をモットーに活動している。今年で14回目を迎える「みのり寄席」は、



心に残る公演づくりを思い描き、例年11月に市内で開催されている。

【菊花】



菊は、たった1本の小さな挿し穂から丹精込めて育てること5か月余り、大輪の花が三輪そろって咲いた時の喜びは格別だ。

菊の仕立て方には大輪三本仕立て、福助作り、ダルマ作り、懸崖作り、小菊盆栽など、さまざまあるが、どれも日本の伝統を受け継いでいる。

とよしな

「楽しい菊づくり講座」

豊科公民館は、4月22日に「楽しい菊づくり講座」の1回目を開催し、新人5人を含む16人が受講した。

自己紹介の後、講座の講師を務め10年目となる光地区の鈴木輝彦さんより5月から始まる実習の前に、特に重要な事項について説明があった。実際の挿し穂を見ながら、苗の管理方法、菊の置き場所、土づくりなどの基本的な話を聞いた。



ほりがね

「常念コンサート」

堀金公民館は、2月20日と24日に「コロナに負けるな!! 常念コンサート」を堀金公民館講堂で開催し、地域住民にエールを送った。

20日は「アルパを楽しむ会」の演奏会に50人ほどが来場した。「コンドルは飛んでいく」などのラテン音楽の他、「荒城の月」「浜辺の歌」などの日本の曲も演奏した。いつもは来場者が演奏に合わせて歌うことができるが、コロナウイルス感染防止のため、今回は心の中で歌ってくださいと会場にはアルパの音色が流れていた。



24日は金井千歳さんのピアノ伴奏で、広沢園子さんのマリリンバ演奏会を、午後と夜の2回、開催した。午後の部には100人以上、夜の部には30人ほどが来場した。堀金の竹岡絹江さんは孫の史織ちゃん、紗耶香ちゃんと一緒にいきたいと言われ、夜の部に来場した。「プロの音色を楽しめたけれど、孫が眠くなってしまいゆっくり聴けなかった。次の機会があれば良いな」と少し残念そうだった。



【ウグイスの生態】

ウグイスが鳴けば、そこに笹原があると分かる。鳥は、餌と住む場所を求めている。「梅にウグイス」と言われるが、梅にいたのはメジロで「ウグイス色」はメジロの色。ウグイスは笹原で目立たない茶色をしていて、アピールのために鳴く。鳴くのはほぼ雄で求愛か縄張り主張のためだという。



ほたか

「初心者向けバードウォッチング教室」

穂高公民館は、4月23日に、有明の松尾寺山公園でバードウォッチング教室を開催した。講師は会員数約200人の信州野鳥の会会長の植松晃岳さん。

最初に植松さんから双眼鏡の使い方を詳しく聞き、バードウォッチングを中心とした「自然観察まるごとウォッチング」に出発した。観察ポイントでは、双眼鏡をのぞいて野鳥の姿を観察し、説明を聞いた。

幅広い年代の21人が参加し、1歳5か月の子どもも両親と一緒に散策を楽しんだ。「説明が分かりやすく興味深かった」「自然のいろいろなことが分かり楽しかった」などの声が聞かれた。

あかしな

「明科駅前はどう変わる」

明科公民館は、4月27日に「明科まちづくり講座」を開催した。都市計画課から事業の進捗状況を聞き、明科まちづくり委員会から現在の商店などの状況説明があった。すでに、龍門淵公園のトイレの改修、あやめ公園の園路補修は終了して、駅周辺や街中の道路拡幅などの工事が進められている。約100人の参加者の中には隣接する松本市四賀地区からの来場者もあり、興味中心はあやめシティー跡地の今後の構想だった。



【明科駅周辺整備事業】

国道19号明科駅前の歩道整備を計画したのは、平成26年の事である。以後住民を交えて国道拡幅に伴う新たなまちづくりの議論を続けて、平成30年から都市再生整備計画事業として具体的な検討、工事が進められ現在に至っている。



長峰林道から見た明科駅周辺

🌸🌸 新任公民館長あいさつ 🌸🌸

中央公民館長 深澤与志章



このたび、4月1日付で中央公民館長となりました。よろしくお願いいたします。

去年は、新型コロナウイルス感染拡大により全都道府県に緊急事態宣言が発出され、長野県においても信州版「新たな日常のすすめ」に沿った「新しい生活様式」の実践が求められています。そして現在も社会活動、経済活動が制限された生活を送ることを余儀なくされています。

生涯学習の分野においても、社会教育事業、スポーツ活動、公民館活動などの活動そのものが「新しい生活様式」に準ずるものとは言い難く、その多くが休止の状態となりました。人と人との交流が前提とされ、基礎となる公民館活動が制限される中、今までとは異なる新たな公民館活動を模索する状況が続いています。今年度、市の新たな公民館講座としてインターネットを利用したオンライン講座を予定しています。密を回避するための講座ですが、距離や世代を超えた関係を築き、参加の機会に恵まれなかった方々も対象にすべく企画したものです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

困難な状況の終わりが見通せない中、コロナ禍の中で見えたもの、コロナ禍だからこそできること、このような状況だからこそ生かせる生涯学習を皆さんと共に考えていきたいと思っております。

今後とも、市の公民館活動に対する変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。